

有峰で「キオビホウナガスズメバチ」の巣発見

有峰森林文化村

有峰では今年2022（令和4年）営巣中のスズメバチの巣を発見する機会が例年になく多いと実感しています。有峰には、オオスズメバチ、モンズズメバチ、コガタスズメバチ、キロスズメバチ、クロスズメバチ、チャロスズメバチなどのスズメバチ科が分布しています。

ビジターセンター近くの浄化槽棟の軒下に直径8cmキオビホウナガスズメバチ（*Dolichovespula media*）の巣を発見しました。ちょうど営巣中の巣はコンクリートの色に擬態するように灰白色で同化しています。

【形態】

体長は女王バチ19～22mm、働きバチ14～16mm、オスバチ15～20mmで、黒色の体に黄色の班紋があります。

【分布】北海道と本州に2亜種が分布し、北海道では平地から低山地に生息しており、市街地での営巣事例も多く見られます。本州では500～1,000m以上の山地に生息し、特に中部山地に多く見られます。

【生態】

女王バチは5月中旬～6月に営巣を開始し、働きバチは7月から羽化します。オスバチと新女王バチは8月～9月に出現します。新女王バチの羽化数は営巣規模により異なりますが、50～200頭です。営巣場所は開放的な場所で、コガタスズメバチと同じように木の枝や人家の軒先などです。巣の外皮は灰色の和紙状で、巣の形は下の方が細くなった提灯型をしています。出入り口は巣の下方にやや横向きについています。巣盤数は3～4層、育房数は300～1,500房位になります。幼虫の餌として生きたハエ、アブ、ガなどの昆虫やクモなどを狩ります。

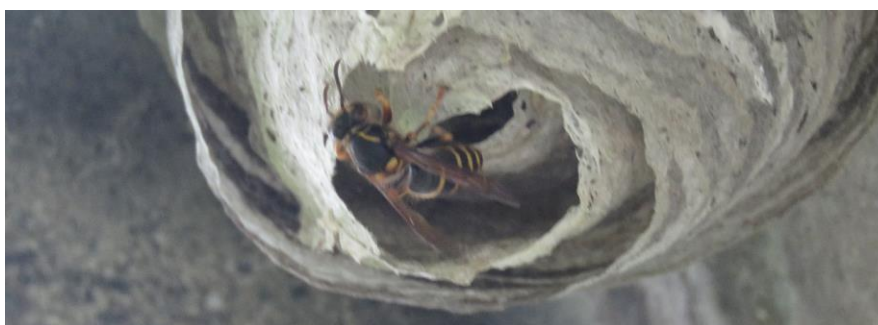
攻撃性、威嚇性ともホオナガスズメバチのなかで最も強く、営巣活動の最盛期には、巣に1～2mの距離まで近づくと攻撃してくるので**注意**が必要です。

参考文献

- 1)昆虫エクスペローラ web
- 2)日本のスズメバチ図鑑 web



営巣中のキオビホウナガスズメバチの働きバチ 2022.7.6



巣穴から出てきたキオビホウナガスズメバチの働きバチ 2022.7.6